

2019年06月25日(火)【外為L a b】松田哲

タイトル:【年初の値動きを思い起こす】

今年(2019年)の年初を思い起こしてみると、年初早々から、大荒れのドル／円相場だった。

1月2日のニューヨーク市場のドル／円のクローズ(終値)は、108円台後半(108.85-90水準)。

1月2日のニューヨーク市場が終わって、シドニー市場の時間(東京時間の朝8:00前後)に、ドル／円が大きく急落を始めた。

108.50を割り込むと、大口のストップ・ロス(損切り注文)があった様子で、下落が加速し、さらに、108.00を割り込んだ水準にも、大口のストップ・ロス(損切り注文)があった様子。

ドル／円が、大きく急落した影響で、クロス円も大幅に急落し、それぞれのクロス円にあったストップ・ロス(損切り注文)をヒットした。

市場参加者が、極端に少ない中、「損切り」が「損切り」を呼ぶ展開となり、ドル／円は、104円台を付けている。

相場が加速した原因に、AIなどを利用したプログラム売買が、いっせいに「ドル売り円買い」を行ったことも挙げられるのだろう。

しかし、この年初の時は、安値104円台から、大きく反発した。

振り返ってみれば、4月に、ドル／円は、112円台半ばまでリバウンドしている。

そして、112円台を戻り高値に、ドル／円は、再び、大きく下落を始めた。

今日(6月25日)、ドル／円は、107円を割り込み、106円台を付けて、安値を更新している。

+++++++++++++++++

直近のドル／円の下落は、ゴールデンウイーク中の5月5日(日曜日)に、トランプ米大統領が、中国製品に対する関税引き上げを表明したことが、きっかけになっている。

米中の貿易交渉の進捗が遅いことに不満を示し、5月10日から、2000億ドル相当の中国製品に対する関税を、10%から25%に引き上げると表明した。

++++++

トランプ大統領が発表した追加関税で、米中貿易摩擦の激化を材料に、ゴールデンウイーク最終日（5月6日月曜日）のドル／円は、111.00 アラウンドに「窓（Gap）」を空けて急落した。

この急落をきっかけに、今のところ、約4円ほどの「ドル安円高」が進んでいる。

++++++

++++++

振り返って、2019年1月のドル／円の月足チャートの形状を見ると、「下ヒゲ」が長いので、下値（安値）からの反発が強いことを示しています。

しかし、年初の値動きで、104円台にまで大きく急落したことは事実である、と考えます。

上記の通りに、年初（2019年1月3日、東京時間早朝）に、104円台に大きく急落したことを思い起こしています。

ドル／円が、年初に大きく急落したことには、原因・理由があるはずだ、と考えるからです。

今は6月であり、年初から随分と時間が経過しましたが、改めて、現状のマーケット（ドル円市場）で、109円、108円を割り込み、107円も割り込んだので、年初に起こった値動きを、なぞるような展開になる可能性もあり得る、と考えます。

つまり、年初（2019年1月3日、東京時間早朝）の値動きが、デジャブ現象のように思えるような展開になる可能性があり得る、と危機感を持って相場に臨んでいます。

++++++

（2019年06月25日東京時間14:45記述）